

会 師 市 小 牧 苦  
師 醫  
野 浅

# ペインクリニック

皆さんは手術室で働いている麻酔科医の存在をよく知っていると思います。しかし、麻酔科医の活躍するのは手術室だけではありません。今回は、麻酔科の仕事の中でも特に麻酔科外来についてお話をしてみたいと思います。

麻酔科外来はペインクリニックと呼ばれることも多く、痛み（ペイン）の診断と治療を行います。

## 神経ブロック療法が有効

ています。ペインクリニックが、わが国に誕生して三十年以上経過し、多くの患者さんがこの治療方法で痛みから開放されています。しかし、ペインクリニックを知らない人はまだまだたくさんいます。

ペインクリニックとは、神経ブロック療法や薬物療法、赤外線、レーザー治療などを応用して痛みの診断と治療を行うこと

ころです。また、痛みだけでなく、末梢（まっしょう）血管障害、顔面神経麻痺（まひ）など神経ブロック療法の有効ないろいろな疾患が扱われます。

従来の医学では痛みの治療としては、まず薬が投与され、次に手術となっていたわけですが、どちらも副作用などで限界があり、駄目ならもう打つ手は無いというのが実情でした。ペ

インクリニックで行う神経ブロックはこの薬物療法と手術療法の間に位置づけられるものです。

痛みはその伝導路を遮断すれば必ず鎮痛が得られます。神経ブロックとは、細い注射針をさして、脊髄や末梢神経の近くに薬液を注入して、神経の伝導を遮断することです。神経ブロックの特徴はまず目的とした部分

だけに作用させることができることです。例えば、三叉（さんさ）神経をブロックすれば顔面の痛みが消失し、交感神経をブロックすれば血流を良くすることができます。また、ブロックは可逆的にも非可逆的にも可能です。局所麻酔薬を使ったときには、作用は二時間ぐらいでなくなりますから安心して治療できますし、がんの痛みではフェノールやアルコールなどを使用することで長期の除痛も期待できます。さらに神経ブロックは非常に細い針で行われますし、これまでの手術療法に比べると、体に与える影響は比較にならないほど小さいものになります。

たった一、数回の局所麻酔薬によるブロックで数年も患者さんを悩ませ続けた痛みが消失することはしばしば経験されることです。一度何かが原因で強い痛みが生じるとこの痛み刺激が脳・脊髄・末梢神経・自律神経

# ペインクリニック

系の複雑な痛みの制御系に変調をきたし、その後はささいな刺激でも次第に強烈な痛みとして感じてしまう機序のあることが明らかになってきました。このような場合、最も効果的なのは星状神経節ブロックを代表とする神経ブロック療法です。

ペインクリニックでの治療の対象となる代表的な疾患としては頭痛、さんさ神経痛、帯状疱疹（ほっしん）・帯状疱疹後神経痛、反射性交感神経萎縮症、がんの痛み、頸（けい）部・肩の痛み、腰下肢痛があります。顔面神経麻痺や突発性難聴などの耳鼻科の病気や網膜動脈閉塞（へいそく）症などの眼科の病気もあり関係する他科の医師との密接な連携プレーは欠かせません。ペインクリニックの存在を多くの市民の方に知っていただき痛みの苦しみから開放される患者さんが少しでも増えることを念願しております。